

こんにちは

日本共産党杉並区議会議員

酒井まさえ

です



2021年3月11日 No.83 連絡先 日本共産党杉並区議団控室 3312-2111
090-9325-5676 sakaimasae.0507@gmail.com

ジェンダー平等社会の実現に向けて 政策・意思決定の場に女性の参画推進を！

女性の苦境改善を！

新型コロナウイルス感染拡大が長引く中、女性の雇用の問題や、家庭内労働の増大、家庭内暴力などの増加など、女性の置かれている環境は悪化しています。

党区議団は、一般質問で、コロナ禍のもとで苦境に追い込まれている女性への支援を強化するとともに、性別や家族の形態などによって差別されず、多様な生き方が認められる「ジェンダー平等社会」の実現のために、区として全力で取り組むことを求めました。

区は、来年度予定している男女共同参画調査等で実態把握に努め、現在行っている産前産後の母子支援や、ひとり親家庭、家族介



3月4日 予算特別委員会にて

護など女性に対する支援の推進につなげていきたいと答えました。

政策・意思決定の場に 女性の参画推進を

東京五輪組織委員会の森元会長の女性蔑視発言は、様々な意思決定の場で、女性が積極的に活躍することを否定するものであり、絶対に許されません。

党区議団は、日本のジェンダーギャップ指数が153カ国中121位と遅れているのは、政治・経済の分野で指導的地位に女性が占める割合が極端に低いことで、森氏の発言はその遅れをとり戻そうとする努力に水を差すものだとの批判。

そのうえで、杉並区は、男女共同参画行動計画等で、区の管理職や各種審議会委員の女性の占める割合について目標を立てているが、より高い目標を設定するとともに、女性が活躍できる条件整備に取り組むべきと迫りました。

区は、改定後の計画で、より高い目標設定を行うとし、女性

職員の昇任に対する不安の軽減を図るように取り組んでいきたい、と答えました。

防災会議の女性委員 の増員を！

3月4日、予算特別委員会では、私は、杉並区の政策・意思決定における女性の登用について引き続き質問をしました。

区の審議会、なかでも防災会議の性委員の割合を引き上げることは重要です。

特に10年前の東日本大震災教訓から、災害時の女性特有のニーズに対応できる体制が求められてきました。その点からも、防災会議の女性委員を増やすよう区に求めました。

区は、女性委員を増やす努力をしていくと答弁しました。



住宅施策の充実を！

公営住宅の整備、家賃助成の取り組みを区に迫る



↑ 杉並区内の区営住宅

公営住宅の供給率

杉並区は23区中19位

党区議団が取り組んでいる区民アンケートには、新型コロナウイルス感染症拡大による失業や収入の激減を訴える声が多数寄せられています。なかでも、賃貸住宅に住む方から「家賃が払えない」「住み続けられない」などの切迫した声が多数にのぼっています。

党区議団は、一般質問で区民のこうした切実な声を取り上げ、賃貸住宅居住者への支援策を区に迫りました。

質疑を通じて、賃貸住宅をめぐる実態が明らかになりました。

第一には、杉並区では、持ち家世帯よりも賃貸住宅入居世帯が多いこと、持ち家が多いといわれる高齢者世帯でも、一人暮らしの世帯では4割近くが賃貸住宅に住んでいること。

第二は、公営住宅（都営・区営）の人口当たりの供給率が、杉並区は23区中19位と低い

こと。区営住宅と高齢者住宅の応募倍率は4〜8倍と高いことです。

「生活に困らないよう

取り組み」と答弁

党区議団は、良質な住宅への入居を保障することは、憲法や国際人権規約など諸原則ではないかと区の認識を問いました。区も、これを否定することはできませんでした。そのうえで、公営住宅の供給拡大と、すでに23区でも17区で実施している家賃補助の実施を求めました。

区は、アパートのあっせん事業や福祉施策で対応していると答弁しましたが、再質問に対して「生活に困らないよう、少なくとも軽減できるよう、取り組む」と答弁。家賃助成も「しっかり議論・研究して対応していきたい」と答弁しました。

今後、みなさんのご意見やご要望、地域の実情などを区に寄せていきたいと思います。

政治をかたるつどいのお知らせ

3月27日(土) 南部地域

午後1時15分～2時50分

永福和泉地域区民センター第3集会室（和泉3-8-18）

3月28日(日) 北部地域

午後1時15分～2時50分

松ノ木2丁目第3アパート集会室（松ノ木2-14-3）

原田あきら都議、酒井まさえが

出席します。（会場は感染防止から人数制限をします。参加希望の方は酒井までご連絡ください。）

酒井携帯**090-9325-5676**

健康の話 ストレスについて

柔らかい日差しに春の訪れを感じる3月は、新しい環境に胸が膨らむこともありすが、不安や緊張からストレスを感じやすい季節でもあります。

今年は長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、日々の生活もストレスを感じることが多くなっています。

春は、昼夜の寒暖差が大きく、自律神経も不安定になりやすく、体調をくずしやすくなります。

また、季節の変わり目で、体内時計が「時差ぼけ」のような状態になり、眠気を感じたり、疲れがとれなかったりします。こういう中で、うつ状態になりやすくなります。

予防法を上げてみます。

- ① 朝はすっきり目覚め日中は行動、夜は深い眠りを。メリハリのある生活を。
 - ② 軽い運動や入浴でリフレッシュを。
 - ③ セロリやみつば、ミントなどの香りのある野菜、柑橘類を取りましょう。気の巡りがよくなります。
 - ④ ストレスで腸内細菌が乱れやすくなります。防ぐために食物繊維や発酵食品を取るとういことです。
- お困りのことは酒井に連絡を！